

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡県東海道広重美術館		
課 名	観光政策課		
指定管理者名	特定非営利活動法人ヘキサプロジェクト		
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和7年6月9日（月）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 松浦 康弘（観光政策課長） ②委 員 望月 雅乃（文化政策課長） ③ “ 平野 英彦（歴史文化課長） ④ “ 大竹 英雄（静岡商工会議所 中小企業相談所 商工観光課長） ⑤ “ 坂野 真帆（株式会社そふと研究室 代表取締役）		
評価点 (各委員平均点)	84.8点	評価	B
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	履行状況については、概ね事業計画とおり良好に事業が実施されていると判断する。 清水港の客船を中心とするインバウンド客の増加は、東海道広重美術館にとって、絶好の好機であり、指定管理者の強みやネットワークを活かした企画の実施や外国人の受入体制を強化している点など、指定管理期間内の取組について、高く評価している。 一方、リピーター客の獲得や若年層の誘客については、今後、さらなる改善の余地があるものとする。 同一敷地内にある由比本陣施設と連携し、由比地区及び東海道歴史街道の観光拠点として、効果的な広報や魅力ある企画を実施し、市内外からのより一層の誘客を担う施設となることを期待する。		

総合評価結果総括表

施設の名 称 [静岡県東海道広重美術館] 課名 [観光政策課]
 指定管理者名 [特定非営利活動法人ヘキサプロジェクト]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認 【配点50点】						
(ア) 事業計画書等 に示された事業が予定どおり、円滑に実施された。(10点)	8	8	9	9	8	8.4
(イ) 施設の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施された(10点)	8	8	8	8	10	8.4
(ウ) 収支状況において、概ね予算どおりに執行されており良好であった(10点)	8	8	8	8	8	8.0
(エ) 市民が展覧会や事業の情報を入手しやすくなるように、積極的な広報宣伝を実施した。(5点)	4	5	4	4	5	4.4
(オ) 地震・停電等の災害・事故発生時の危機管理体制を整備しており、発生時には迅速かつ的確な対応は行った。(5点)	3	4	3	5	4	3.8
(カ) 適正な能力を持った職員が、適切な人数配置された(5点)	4	5	4	4	4	4.2
(キ) 設定した目標が達成された(5点)	4	4	4	4	4	4.0
小 計	39	42	40	42	43	41.2
2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
(ア) 指定管理者の持つ経験・専門性を活かし、多様なテーマの展覧会を企画・実施した。(5点)	5	5	5	5	5	5.0
(イ) 指定管理者の持つ経験・専門性を活かし、美術館や浮世絵の魅力を伝える多角的な関連事業を企画・実施した。(5点)	4	5	5	4	5	4.6
(ウ) 指定管理者の持つネットワーク・ノウハウを活かし、他社との共催・連携等に積極的に取り組んだ。(5点)	4	5	5	4	5	4.6
小 計	13	15	15	13	15	14.2
3 市民(利用者)のサービスの向上 【配点15点】						
(ア) 職員の利用者に対する応対が親切丁寧であり、利用者に安心感を与えるとともに、利用者の信頼感が得られるよう努めた(8点)	7	7	7	7	8	7.2

(イ) 職員の対応力向上に努めるとともに、利用者の苦情等には速やかに対応した (7点)	6	6	6	6	7	6.2
小 計	13	13	13	13	15	13.4
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(ア) (ア) 収蔵品の適切な維持管理に努めるとともに、収蔵品及び関連資料の調査研究を行い、事業活動に活かした。 (7点)	5	6	5	6	4	5.2
(イ) 教育普及事業等を通じ、浮世絵を中心とした芸術文化への関心を高めることに努めた。 (7点)	5	7	5	6	6	5.8
(ウ) 同一敷地内にある由比本陣施設の指定管理者と連携・調整し、円滑な施設の維持管理に努めた。 (6点)	5	6	4	5	5	5.0
小 計	15	19	14	17	15	16.0
合 計	80	89	82	85	88	84.8

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】
利用者数について、当初2年間はコロナ禍の影響もあり、目標に達していなかったが、指定管理者の強みを活かした企画展の実施や外国人客対応に向けた専門職員の配置などは高く評価できる。常設展示については、利用者アンケート結果では低めの評価になっており、これについては、指定管理者側で管理や提案ができない部分との説明であったが、常設展示の在り方やリニューアルについても市と積極的に協議のうえ進め、より集客力のある施設に向けて取り組んでいただきたい。
【B評価委員】
セノバや動物園との連携企画は、現指定管理者の持つネットワークから生まれたもので、評価できる。すぐの来館に結びつかなくても、体験は将来の誘客につながると思う。魅力の多い展覧会と思っていたが、見せ方のひと工夫があり、指定管理者としての創意工夫が表れている。
【C評価委員】
努力されているが、市内の認知度を上げる取組をお願いしたい。
【D評価委員】
来館者のリピーターが少ないように見受けられるため、企画展の充実と広報活動により一層力を入れて取り組んでいただきたい。
【E評価委員】
館の目的とあり方の設定が難しい中、広重の数少ない専門美術館として、全国的（インバウンドでは世界的）に注目を集めやすい施設となり得る。広報、企画において、指定管理者の専門性が生きる状況となっている。 他方、本来の市民の美術への意識醸造、芸術文化向上については、美術館としての充実（所蔵品、研究等）にもより一層力を入れていただければと考える。予算の仕立てが厳しい中ではあるが、街道文化との連携等、さらなる工夫を期待する
評価委員会としての意見
指定管理者の創意工夫を活かした企画展やインバウンド客が増加している状況を鑑み、英語対応ができる人材を配置したことなど、指定管理期間における取組について高く評価している。 一方、常設展示の満足度が企画展示と比べると劣る点や入館者数の増加に対して、リピーター客が伸び悩んでいるといった課題については、今後さらなる創意工夫を期待したい。